

# 令和2年度 安芸森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

令和 2 年 4 月

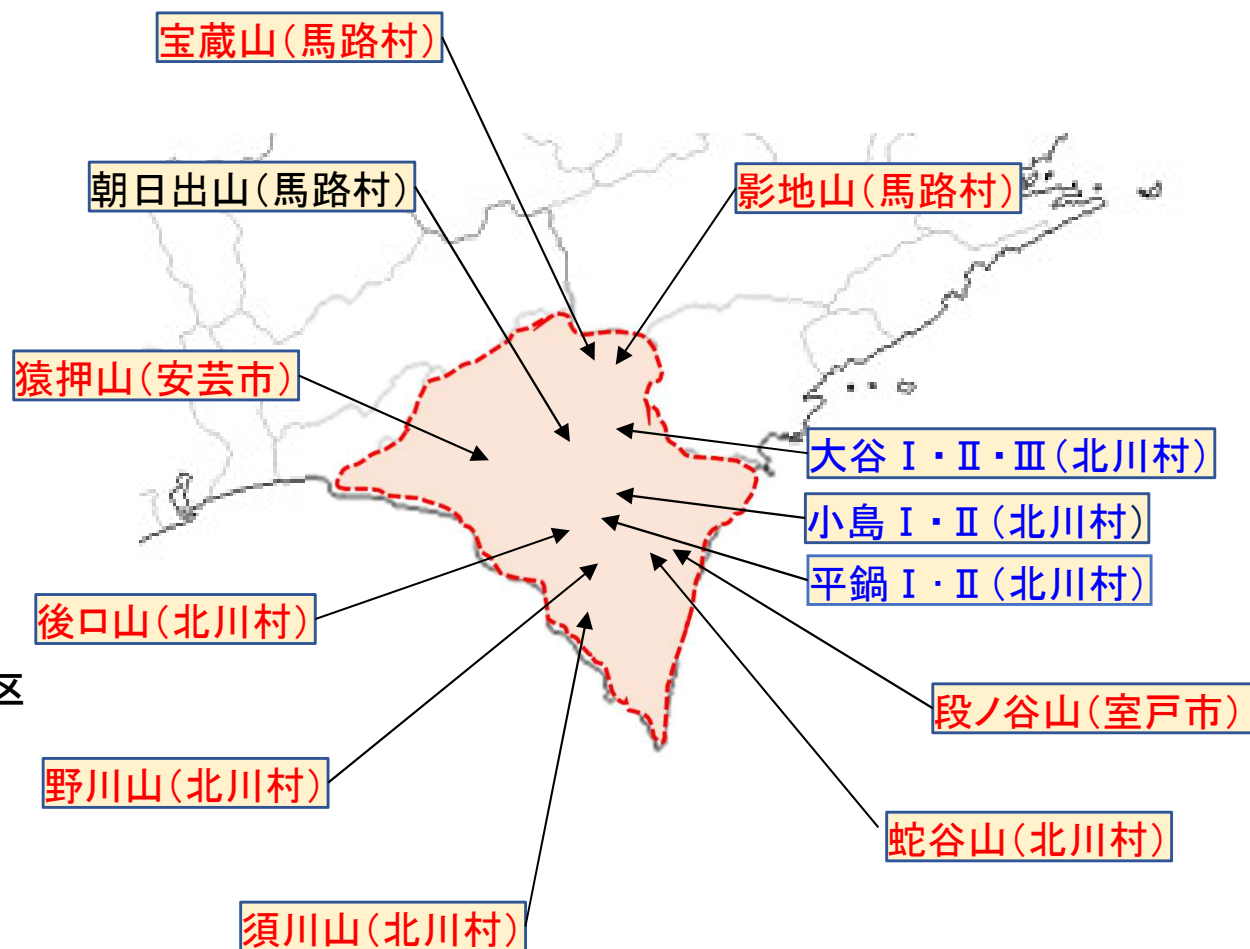
安芸森林管理署

# 1. 地域の安全・安心を守る治山対策の強化

- 台風、豪雨等の災害から地域の安全・安心を守る治山事業を16箇所を実施(R元年度17箇所(14.2億円)→R2年度16箇所(12.3億円))。
- 台風や豪雨により被害を受けた箇所の復旧(山地災害復旧事業)を事業費0.3億円で実施。

## ■ 令和2年度治山事業の実施予定地区

国有林直轄治山		
予定地区	箇所数	事業費
段ノ谷山(室戸市) 蛇谷山、後口山、野川山、須川山(北川村) 宝蔵山、影地山(馬路村) 猿押山(安芸市)	8	4.6億円
民有林直轄治山		
予定地区	箇所数	事業費
平鍋Ⅰ、平鍋Ⅱ、小島Ⅰ、小島Ⅱ 大谷Ⅰ、大谷Ⅱ、大谷Ⅲ(北川村)	7	7.4億円



## ■ 令和2年度山地災害復旧事業の実施予定地区

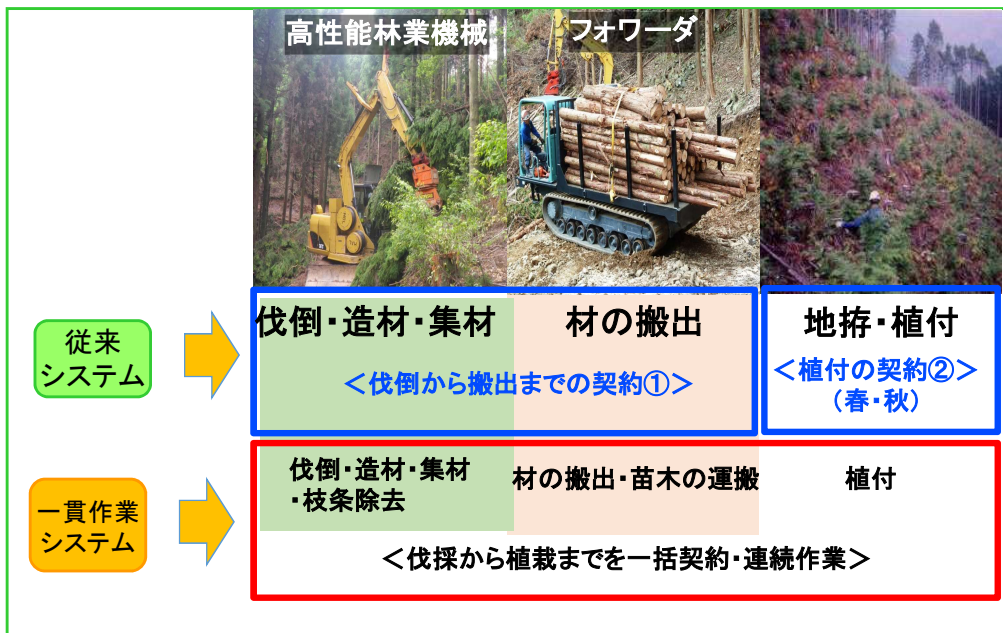
山地災害復旧予定地区		
予定地区	箇所数	事業費
朝日出山(馬路村)	1	0.3億円

※ 下線は 令和2年度新規地区

## 2. 伐採・造林のトータルコストの削減

- 通年植栽が可能なコンテナ苗を活用した伐採から植栽までの一貫作業を1地区(北川村須川山)で実施。
- 一貫作業に欠かせないコンテナ苗約2万5千本導入(改植予定地では安価な裸苗も活用)。
- 夏場の現場作業負担の大きい下刈作業の省力化のため、作業期間を「6~12月」に拡大し、冬下刈を本格導入するとともに、下刈回数の削減を更に推進。
- 安芸署が開発した安価で急傾斜地にもマッチした「L型獣害防護ネット」を全ての植栽箇所に導入。

### ■ 一貫作業システムと従来システム



#### ＜一貫作業システムのポイント＞

1. 伐採・搬出から植栽・下刈までの全体作業工程の最適化
2. 伐採後、高性能林業機械(プロセッサ、グラップル等)を活用し、集材作業中に枝条等の除去を実施。
3. フォワーダや架線の帰り荷を活用し苗木を運搬。時期を選ばず植栽が可能なコンテナ苗を活用し、伐採後時間をおかずに植付を完了。
4. 一括発注により機械の搬送費や間接費の削減も可能。

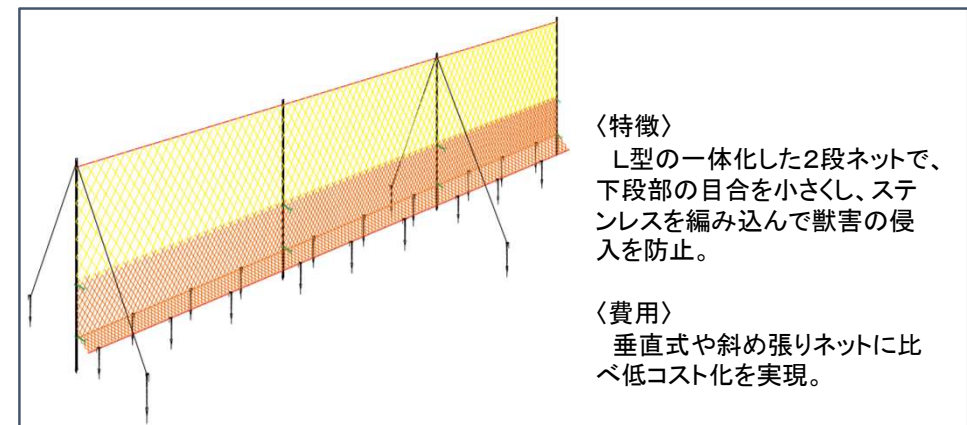
### ■ 安芸森林管理署の伐採・造林一貫作業実施予定地区

NO.	所在地	国有林名	面積(ha)	備考
1	北川村	須川山	5.0	一括発注

### ■ 安芸森林管理署のコンテナ苗導入本数 (単位:千本)

区分	H27	H28	H29	H30	R元	R2
全苗本数	33.6	42.8	16.7	46.6	24.0	64.7
うちコンテナ苗本数	8.6	42.8	16.6	46.6	21.7	64.7
割合	26	100	100	100	90	100

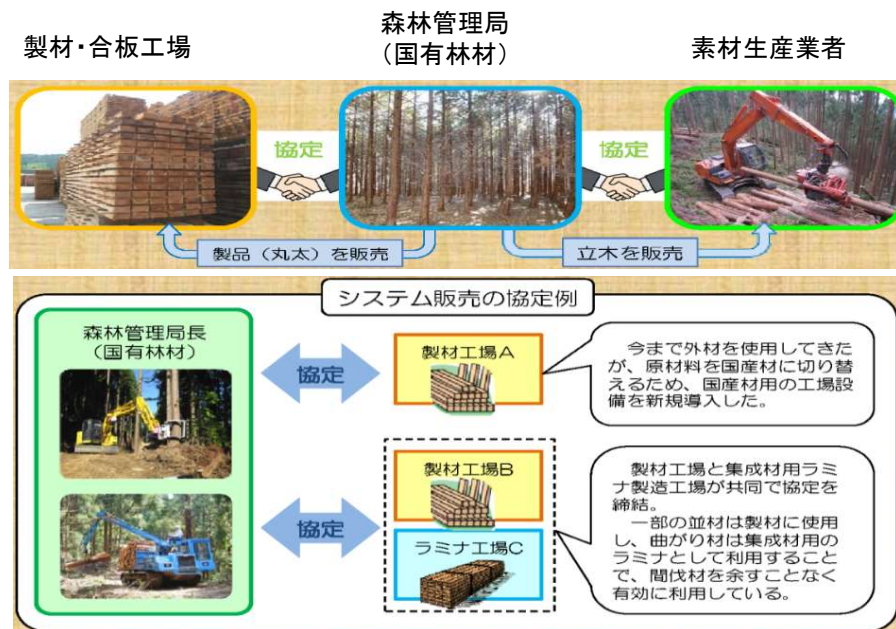
### ■ L型獣害防護ネット(安芸森林管理署開発)



### 3. 国有林材の安定供給と林業事業体の育成

- 民有林と国有林の連携や立木販売の強化等により、国有林材6.4万m<sup>3</sup>(製品(丸太)換算)を安定供給(R元年度4.6万m<sup>3</sup>(製品3.4万m<sup>3</sup>、立木1.7万m<sup>3</sup>) → R2年度6.4万m<sup>3</sup>(製品3.7万m<sup>3</sup>、立木3.8万m<sup>3</sup>))。
- 安芸市の伊尾木土場 (H29年度整備)を活用し民有林と国有林の連携による国産材の安定供給を推進。
- 複数年に渡る安定した事業量の確保による林業事業体の育成を後押しするため、複数年契約を3箇所で大規模実施(H30-R2年度北川村 グドウジ谷山、R元-R2年度北川村 躑躅尾山、R2-R4年度室戸市 大道南山)。
- 管内林業事業体を対象として、製品(丸太)生産事業の請負現場を相互に視察する「現地勉強会」を開催し、林業事業体の生産性と技術力の向上を推進。

#### ■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



※システム販売の対象は、製品(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。  
 ※立木のシステム販売は、複数年(3年以内)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

#### ■ 安芸森林管理署の国有林材の供給量

(単位:万m<sup>3</sup>)

	H28	H29	H30	R元	R2
供給総量(製品換算)	4.0	4.1	3.2	4.6	6.4
製品販売	3.7	3.9	3.1	3.4	3.7
システム販売	2.9	3.2	2.6	2.8	2.8
立木販売	0.4	0.3	0.2	1.7	3.8

※立木の製品換算率は70%

#### ■ 安芸森林管理署の複数年契約地区

事業年度	所在地	国有林名	面積(ha)	予定数量(m <sup>3</sup> )
H30~R2	北川村	グドウジ谷山	89	8,100
R元~R2	北川村	躑躅尾山	86	7,000
R2~R4	室戸市	大道南山	78	9,000



請負事業箇所における現地勉強会

## 4. ドローンを活用した地域連携の推進

- 安芸森林管理署では、ドローン6機を配備し、山地災害調査、森林資源調査、シカ防護柵の巡視等に積極的に活用。
- 令和元年度に、中芸5町村(田野町・安田町・奈半利町・北川村・馬路村)とドローン活用した災害活動連携協定を締結。今後、連携協定に基づく取り組みや、地元町村からの要望を踏まえた、「ドローン活用講習会」等を開催。
- 台風により発生した民有林の被害状況をドローンにより調査し、空撮画像等を県・市に提供。



■ ドローン活用講習会(安芸森林管理署)



■ ドローンによる山地災害調査



■ 中芸地域における連携協定締結式

## 5. 地域と連携したシカ被害対策の推進

- 平成25年12月に馬路村と、平成30年8月に北川村と協定を締結し、①囲いわな等の無償貸与、②国有林の入林手続の簡素化、③捕獲技術支援により、民有林と国有林が一体となってシカ被害対策を推進。
- 平成31年2月には県、管内市町村の担当職員を対象に、「シカ効率的捕獲方法現地検討会」を開催し、①高知県工業技術センターとの連携による「ドローンを活用したシカわな遠隔捕獲通知システム」の操作実演、②四国森林管理局が開発した「こじゃんと1号」(小型囲いわな)の組立講習、③効果的なくくりわなの設置指導等を行い、シカの効率的な捕獲方法の技術と成果を普及。①のドローンシステムは、実用化に向けてわな設置数を20基程度に拡大して実効性・経済性等を実証。
- これらの取組により、安芸森林管理署管内のシカ捕獲頭数は平成25年度10頭から令和元年度には268頭と年々増加。

### ■ ニホンジカの捕獲頭数の推移(安芸森林管理署管内)

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
10頭	41頭	64頭	96頭	127頭	151頭	268頭

※ H28年度に箱わなに加え、くくりわなを導入

### ■ 北川村長と安芸森林管理署長による協定締結(H30.7.30)



### ■ 小型囲いわな「こじゃんと1号」



### ■ ドローンを活用したシカわな遠隔捕獲通知システム



## 6. 「土佐備長炭ウバメガシ資源の人工造成」の取組

- 土佐備長炭の原料であるウバメガシ資源確保のため、関係自治体等と連携し、ウバメガシの人工造成による原木生産技術の確立に取り組むとして、令和2年2月5日に、東洋町別役南山国有林の伐採跡地にウバメガシの苗木約2,000本を植栽。

今後、育成状況等を調査し、ウバメガシの人工造成の知見を蓄積して原木生産技術の確立を目指す。



ウバメガシ植樹作業



ウバメガシの苗木



ウバメガシ植樹祭  
(東洋町別役南山国有林)